

岡山県立林野高校

Chromebook

中山間地域の高等学校における固有の教育課題を解決するICT機器の活用について

取組等の概要



【経緯】2017年3月、さらなるICT機器の利活用を進めるために、岡山県教育委員会、美作市、明治大学の協力のもと、Googleが開発した教育に特化したシステムG Suite for Educationの実証実験に参加しました。半年の効果検証を踏まえ、10月から1年次生がノート型PC「Chromebook」を一人1台所有して、G Suite for Educationを教育活動全般で活用する取組を開始しました。

【取組のねらいと取組状況】次の6点を中心に取組を推進しています。

- ①敷地内をカバーしたWi-Fi環境の中、インターネットに接続して、わからないことをすぐに調べられるなど学習効率や学習意欲の向上が期待でき、家庭での学習時間増加も見込めます。さらに、eポートフォリオに随時入力でき、進路学習に使用しています。
- ②システムが持つ共同編集機能を使って、複数の生徒たちで文章や表計算、プレゼンテーションを作成できます。リアルな対話と組み合わせると、お互いに思考していることが可視化できます。さらに、時間軸でその作成過程が確認できるため、教師の評価が行いやすくなります。
- ③Chromebookが人間の発音を聞き取り、英語で表記する機能を使って、英語のスピーキング能力の向上が期待できます。新学習指導要領で英語の4技能が重視されるなかで、さらなる教授法の研究が期待できます。
- ④Classroomアプリを使って、個々の生徒に対して、文字や画像、音声での課題や補足資料を配信して、より細やかな指導が期待できます。定期テストの解説や授業の前後の課題を与える実践を進めています。また、7月の豪雨災害で、交通機関の影響で登校出来なくなった生徒に対して授業をビデオで撮影して家庭に配信するなど、今後、様々な可能性が期待できます。
- ⑤Formsアプリを用いて、文字や画像、音声でのWebテストが可能になり、授業の最後のミニテストによって、授業のねらいがどう達成されたかを確認することができます。また、学期毎の授業評価アンケートや年に一度の学校自己評価アンケートにも威力を発揮します。さらに、7月の豪雨災害では、生徒の安否確認にも使用され、より具体的で、迅速な対応が可能になりました。
- ⑥様々なファイルが共有できることから、職員の業務改善にも効果を発揮しています。実際、毎日の連絡票や職員会議資料は電子化・共有化が図られ、担当教員の負担減とともに資源の節約になっています。また、前述のFormsアプリで、教職員への各種調査は格段に速くなり、時間の余裕が生まれつつあります。

以上のように、塾や公共図書館・美術館のような施設がなくても、新たな教授方法や教材の開発、世界中と繋がる仕組を構築して、確かな学力の定着を目指しています。また、クラウドを活用しての教職員の業務効率化を推進しています。